

教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 2 月 22 日

所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科

氏 名： 小山 雄一 職位：助教

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
組織学・同実習	臨床検査技術学科	必修	1 年次	102
病理学 I	臨床検査技術学科	必修	2 年次	91
病理学 II	臨床検査技術学科	必修	2 年次	97
病理学実習	臨床検査技術学科	必修	2 年次	88
病理検査学実習	臨床検査技術学科	必修	3 年次	81
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4 年次	78

病理学, 病理検査学を主に担当している。病理検査学は病理診断を支える必要不可欠な分野であり、病理学をもとに成り立っている。これらの担当科目について、学生が興味を持って主体的に学修できるように導くことが責務の一つであると考えている。

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

教育の信念

学生にとって分かりやすい教育を目指すことを信念としている。臨床検査技師としての自身の経験をふまえて理解しやすい教育を実践していきたい。

育てたい学生像

「専門的スキル」と「汎用スキル」の両方を兼ね備えた学生を育成していきたいと考えている。医療従事者として活躍するためには専門的スキルに加え、周囲と連携するためのコミュニケーション力が重要である。そのため、汎用スキルや医療従事者に求められる人間性（協調性や責任感、向学心など）を学生に身に付けてもらいたいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

難しそうな内容であっても学生がイメージしやすいように伝えるということが重要であると考えている。そのために講義資料作成の際には注意を払っている。具体的には、指定教科書の内容、国家試験の出題範囲を意識しながらどのように提示すれば学生が短時間で理解できるかという点を模索し、直観的に理解できるように講義資料に図や表を多く取り入れている。また講義途中に小括として複数の簡単な確認問題をはさみ、学生が講義のポイントをおさえ、知識のアウトプットができるようにしている。

<p><u>アクティブラーニング</u>についての取組</p> <p>グループに分かれて行う実習では学生が主体的に取り組み、学生間でコミュニケーションが取りやすいようにしている。講義で学んだ事柄を実習では自身で実践し、予測とは違った結果になった場合には原因を考察してもらっている。</p>
<p><u>ICTの教育への活用</u></p> <p>オンライン教育の一貫として講義動画の配信を行い、実習の顕微鏡観察の際には学生が自身の端末で組織標本像を撮影できるようにしている。小テストや定期テストにおいても学内外のシステムを活用した方法を実践し、効果の高い教育方法を模索している。</p>
<p>4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）</p>
<p>1 <u>教育（授業、実習）の創意工夫（B）</u></p> <p>2 <u>学生の理解度の把握（B）</u></p> <p>3 <u>学生の自学自習を促すための工夫（B）</u></p> <p>4 <u>学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）</u></p> <p>5 <u>双方向授業への工夫（B）</u></p> <p>⑥<u>国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）</u></p> <p>過去 10 年分程度の国家試験の出題傾向を参照し、重要点をまとめた資料を作成して講義を行った。また、模擬試験の結果から学生が間違いやすいポイントを把握し、該当箇所については重点的に説明を行った。学生が繰り返し学習できるように講義の配布資料、講義の録画ファイルについては学内システムを活用して掲示した。</p>
<p>5. 学生授業評価</p>
<p>1 <u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u></p> <p>授業評価において学生から指摘された点（講義中のまとめ問題の回答時間が長い）については、学生に合わせて調整するように心掛けた。</p> <p>2 <u>①の結果はどうでしたか。</u></p> <p>同様の指摘を再度学生から受けることがなくなった。</p> <p>3 <u>②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</u></p> <p>自分自身では気付くことが難しい点について、授業評価を通じて知ることができるため、今後も評価の内容を参考に教育活動を行っていきたいと考えている。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p>
<p>1 <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u></p> <p>受動的な学習では効果が限られるため、講義を行うのみではなく練習問題を取り入れる。また、繰り返し復習ができるような教材を準備したいと考えている。</p> <p>2 <u>教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</u></p> <p>いくつかの学生から肯定的な意見（資料が分かりやすいなど）をもらった。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）</p> <p>FD 研修会「講義科目において学生の学びを促す学習評価」などの FD 研修に参加した。</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）</p> <p>学生の理解度の把握に努めていきたい。教育手法に関して、自身で創意工夫を施すと共に、学内外における他の教育者の手法を参考にし、教育の質を高められるように努力していきたい。</p>
<p>9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ</p> <p>シラバス，授業評価データ</p>

* A4 4枚程度 (A4 1枚(目安1行40文字×36行1440文字))

● 下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

eq
¥o¥ac(

該当を○で囲む